

2020年初頭から新型コロナウイルス感染症が流行し、感染予防を皆さんがしっかりされているおかげか、季節性の感染症は激減しています。全国的に2020/2021シーズンのインフルエンザの流行はなく、インフルエンザ脳症の報告も全年齢を通して0例でした。2021/2022シーズンですが当科ではまだインフルエンザを確認していません。また夏に流行する小児に多い手足口病やヘルパンギーナも昨年秋ごろから初冬に小流行があり季節外れで不思議な現象でした。

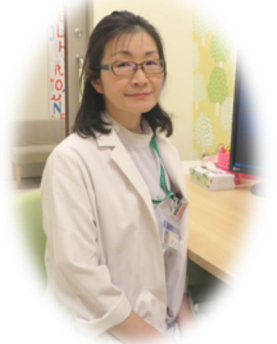
診療内容

主に感染性疾患を診療しております。専門外来は渡邊俊之医師のアトピー外来、伊藤弘道医師の発達外来、杉本真弓医師の食物アレルギー外来を行っており、藤井が神経外来を行っております。また週1回、高松赤十字病院の幸山洋子医師に新生児病棟回診をしていただいております。



小児神経外来について

小児神経外来を少しご紹介致します。無熱性けいれんや熱性けいれんを繰り返す方、また意識消失し倒れた、などを主訴に紹介いただくことごとが多く、てんかんの診断のため血液・尿検査、脳波検査、頭部画像検査を行います。また、意識減損し倒れ、脳波検査や頭部MRI/MRA検査を行っても異常を認めず、起立試験を行い起立性調節障害だったことも多くあります。特に最近はコロナ禍で休校となったり、友人との交流が制限されたりして、環境が大きく変化したことで心に不安定さを持つ子供たちが多く、自律神経系の異常を来しているのかもしれない。小児でてんかん発作と紛らわしい疾患を発作型から申しますと、①全身性強直発作や強直間代発作は熱性けいれんや軽症胃腸炎関連けいれんや心因発作や急性代謝性障害やチアノーゼ型憤怒けいれんの長引いたものがあります。②意識消失や脱力発作を示すのは憤怒けいれん、神経調節性失神、心因性反応の一部、熱性けいれんの一部、③ぴくぴくさせるのは睡眠時ミオクローヌス、心因性反応の一部、④恐怖や徘徊などの奇妙な動きをするのは夜驚症、睡眠時遊行症、心因性反応です。3歳以降の熱性けいれん児や急性代謝障害の一部では、てんかん発作波を示すことがあり鑑別が必要ですのでご紹介ください。



(文責 藤井 笑子)

外来担当表

	月	火	水	木	金
午前	富田 智子	藤井 笑子	中野 睦基	富田 智子	富田 智子
午後	富田 智子	中野 睦基 15時～	予防接種	富田 智子 15時～	富田 智子
	渡邊 俊之 (第1週 要予約) アトピー外来	伊藤 弘道 (第2週 要予約) 発達神経外来		藤井 笑子 (15時～ 要予約) 神経外来	徳島大学医師 (第1週 要予約) 食物アレルギー外来